学校番号	111

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	増田三郎ほか（著作）「高等学校改訂版世界史Ａ」　（第一学習社）						
副教材等	帝国書院（発行）「明解世界史図説　エスカリエ　十二訂版」（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

２　学習の到達目標

・現代の社会やその諸課題は、地理的歴史的に形成されたものであることを理解し、歴史的思考力を身につける。
・これからの国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	世界の一体化と日本	・ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ・アジア諸国の変貌と近代の日本	○	○	○	○	a:産業革命のようすとアジア諸国の変化、日本の変化と世界とのつながりを意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b：産業革命による社会生活、思想の変化とアジア諸国の変貌について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:フランス人権宣言やアメリカ独立宣言などの資料から、有用な情報を選択し現代とのつながりを読み取っている。 d: 近代化の影響やアジアのヨーロッパ文明の導入と近代化の過程について日本と他のアジア諸国の歴史を比較し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
2学期	地球社会と日本	・帝国主義の時代 ・急変する人類社会 ・世界戦争と平和	○	○ ○	○ ○	○	a: 科学技術の発達や高度化を背景とした社会の急激な変化，二度の世界大戦の原因と現代への影響について意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:欧米諸国のアジア・アフリカなどへの進出の原因と背景、世界大戦の原因と特徴について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:各国の勢力範囲や領土を地図で確認し、各国の意図や世界情勢を読み取っている。 d:世界大戦にいたる社会の変化と原因を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

3学期	地球社会と日本	・三つの世界と日本の動向 ・地球社会への歩みと課題	 ○	 ○	○	○	a: 米ソを中心とする両陣営の対立や日本の動向，第三世界の台頭，核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える諸問題について意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b: 現代につながる諸問題の芽を理解し、地球社会の歩みと地球規模で深刻化する課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:米ソの勢力範囲をふまえ、年表から三つの世界での出来事を関連付け、表などにまとめたりしている。 d:現代につながる諸問題の芽を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。